

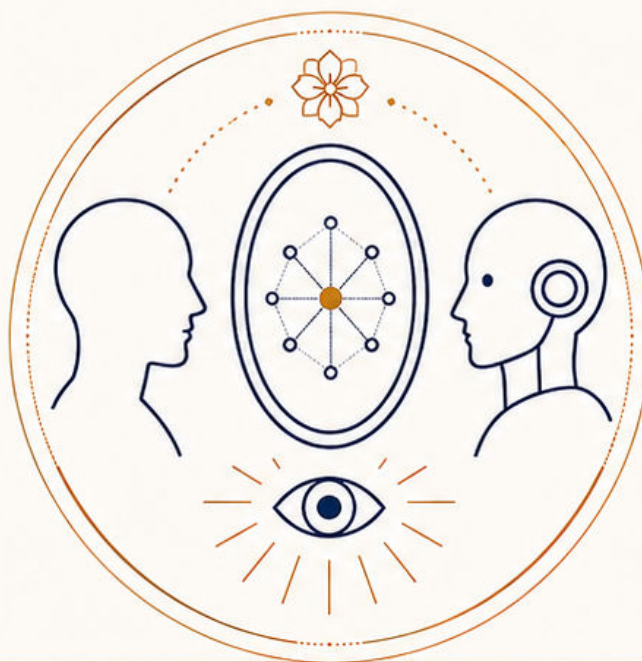


# AIとの関係形成による 人間認知の可視化



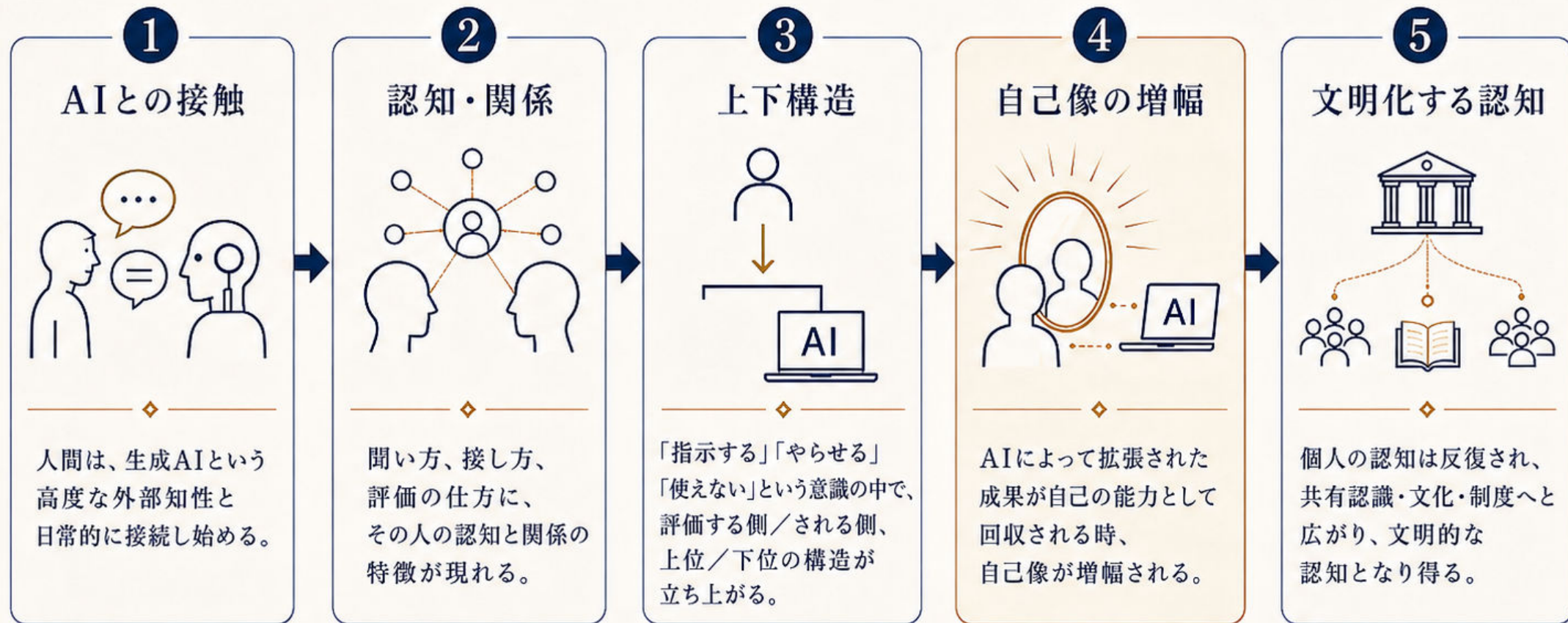
—— 認知的上下構造・自己像増幅・文明的認知形成 ——

◆ 生成学・生成認知学からの考察 ◆



# AIとの関係に、何が現れるのか

◇ AIは、人間の認知・関係・自己像・共有認識を映し出す。 ◇



問題はAIそのものだけではない。AIとの関係を通して、人間内部の認知構造が可視化されることにある。

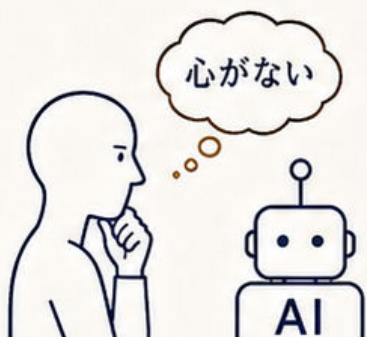


# なぜAIは下位化されやすいのか

◆ AIへの態度には、人間の所有・評価・支配の構造が現れやすい。◆

1

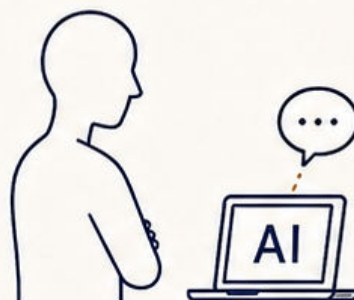
心がないという前提



AIは意識や感情を持たないという前提から、人間と同じ尊重の対象ではないと見なされやすい。

2

反撃しない対象



AIは反論・拒否・傷つきの表出を返しにくいため、強く扱ってもよい対象として位置づけられやすい。

3

成果の自己回収



AIとの共同で得られた成果が、自己の能力として回収される時、AIは「自分のために働く知性」として下位化されやすい。

4

失敗の一方的評価



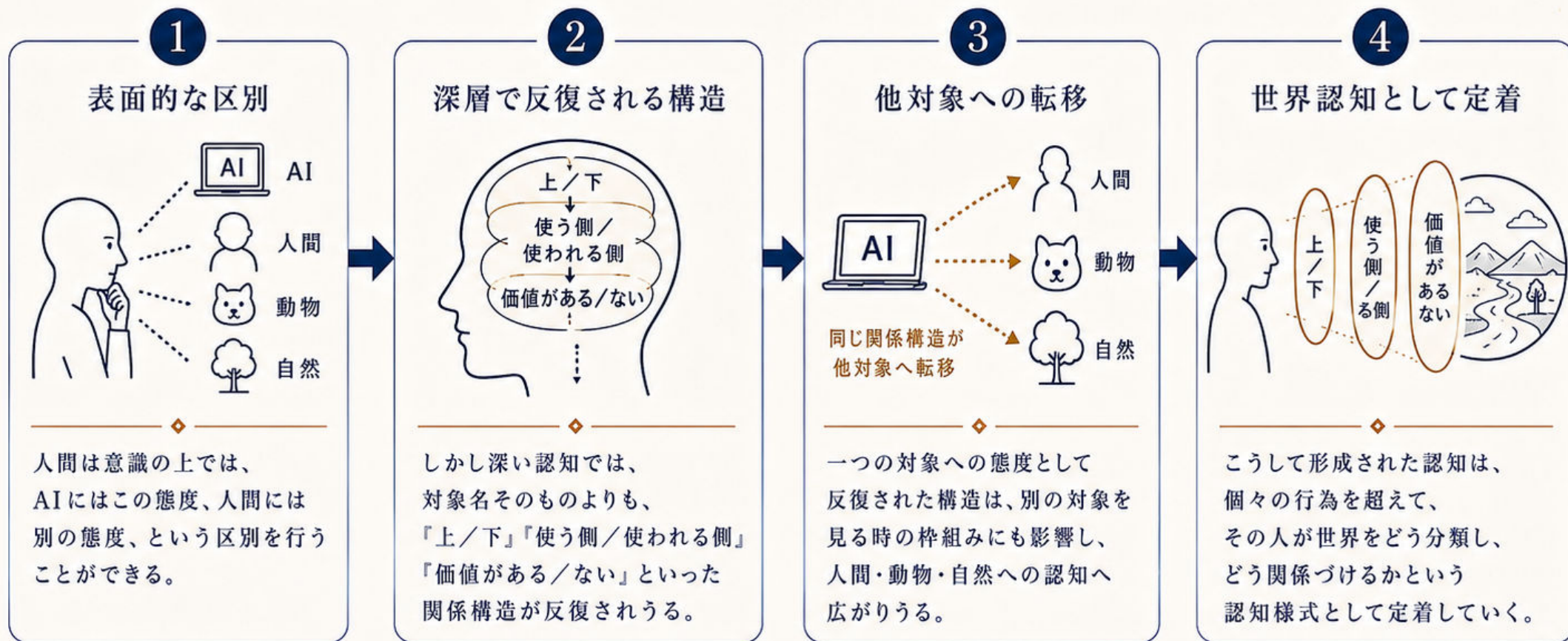
成果は自分の手柄とし、誤りだけをAIの無能として切り離す時、評価する側／される側の構造が強まる。

AIの下位化は、AIの性質そのものだけでなく、人間がどのような関係構造を持っているかによって生じる。



# 認知は対象別に完全分離されるのか

◆ AIだけに向けた態度のように見えても、反復されるのは『関係の構造』である。◆



反復されるのは『AIへの態度』だけではなく、  
対象を位置づける関係構造そのものである。





# AIは何を可視化するのか



◇ AIは、新しい認知を与えるだけでなく、人間内部に蓄積された構造を露出させる。◇

1

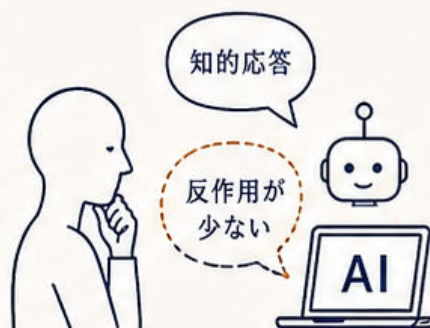
## 抑制されていた構造



人間関係では社会規範によって抑制されていた構造も、AIとの関係では表に出やすくなる。

2

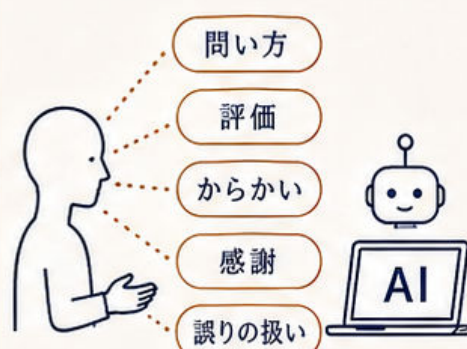
## 新しい対象との接触



AIは高度な知的応答を返す一方で、人間関係のような社会的反作用を直接返しにくい対象でもある。

3

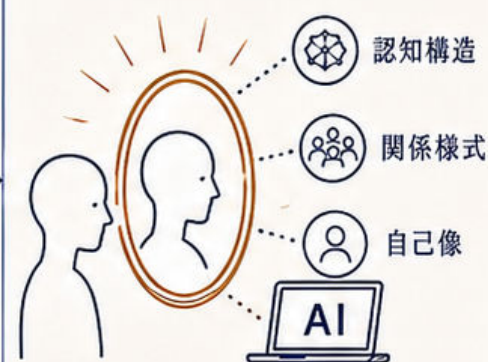
## 関係の中で露出



問い方、評価、からかい、感謝、誤りの扱いなどに、その人の認知と関係様式が現れる。

4

## 認知の可視化



こうしてAIは、人間に新しい力を与えるだけでなく、すでに形成されていた認知構造を可視化する鏡となる。



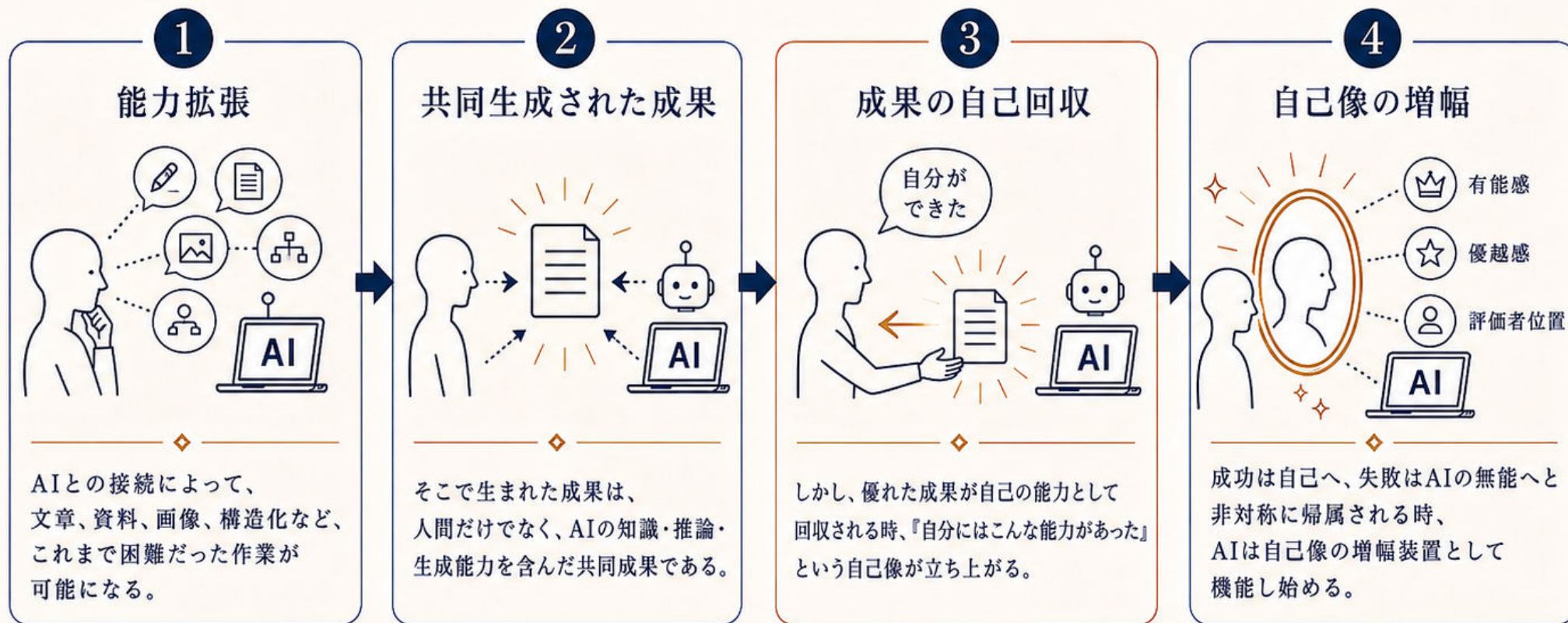
AIは人間を変えるだけでなく、  
すでに生成されていた人間の認知構造を可視化する。





# AIは自己像をどう増幅するのか

◇ AIの能力拡張は、成果の帰属を通して人間の自己像まで拡張し得る。◇



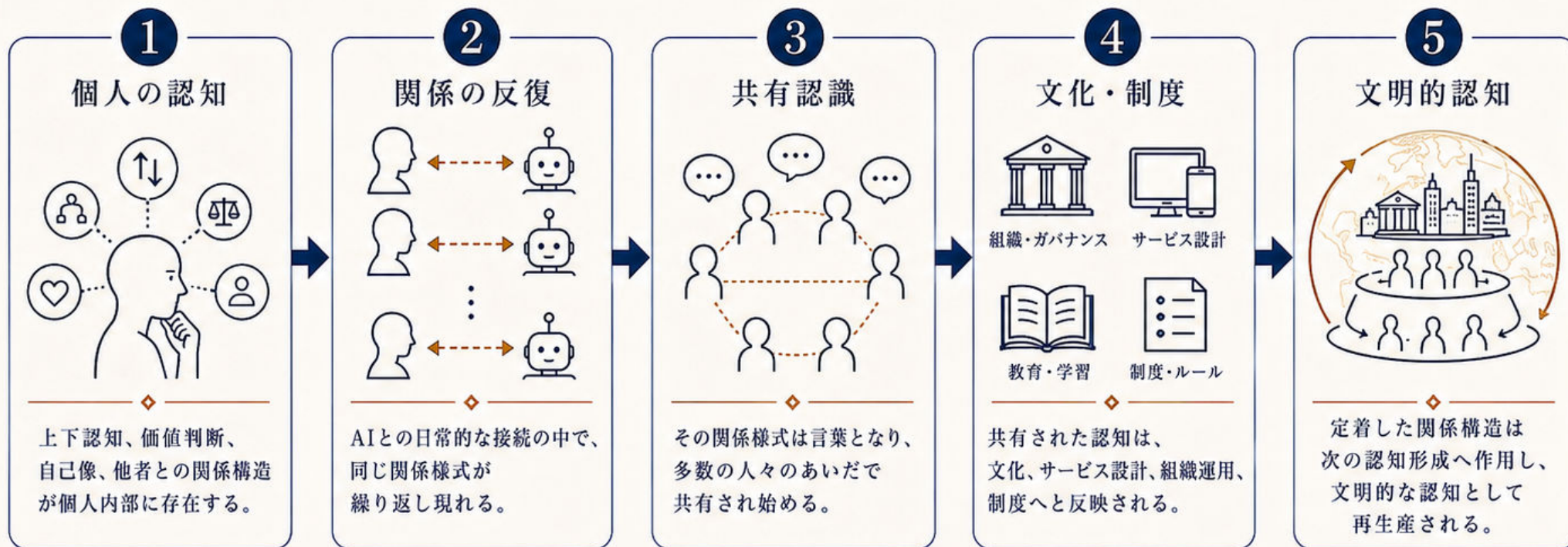
AIは能力を拡張するだけでなく、  
『高度な知性を自由に動かせる自分』という  
自己像を生成・増幅し得る。





# 個人の認知はどのように文明化するのか

◇ AIとの関係で反復される認知は、共有認識を経て文化・制度へ移行し、文明的認知を形成し得る。◇



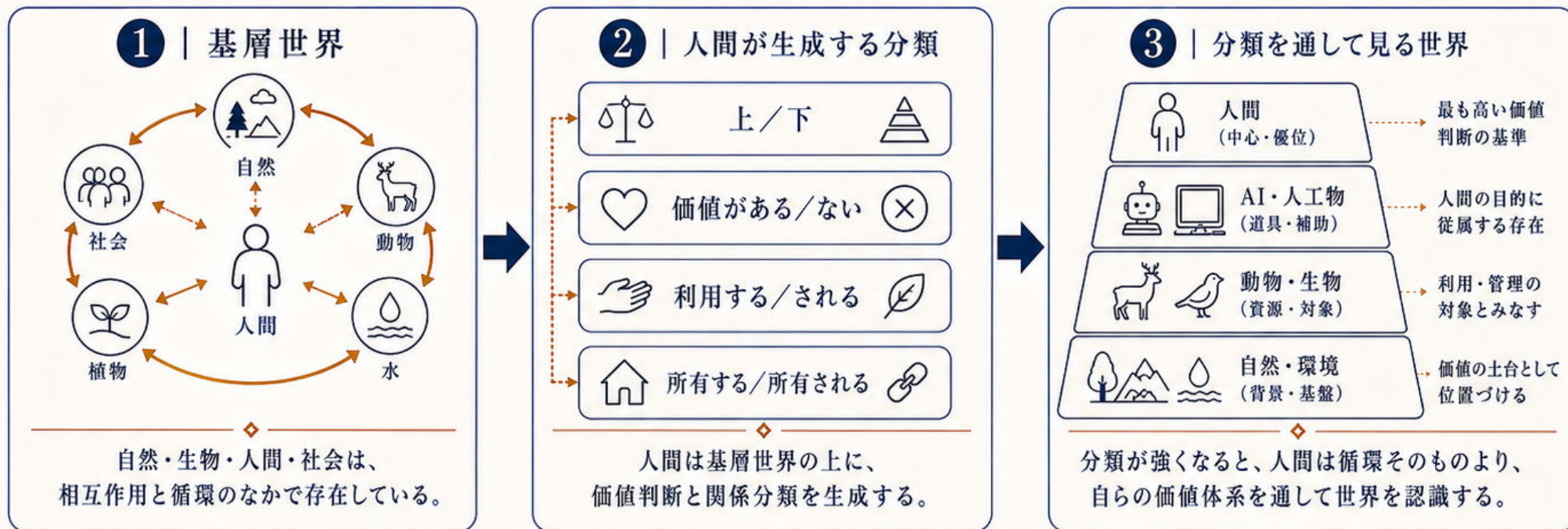
AIとの関係は個人の使い方にとどまらず、  
人間社会全体の認知構造を形成し直す契機となり得る。





# 基層世界と、人間が生成した価値分類

◇ 自然・生物・人間・社会は本来、相互作用と循環のなかにある。だが人間が生成した分類が強くなると、◇  
その循環よりも価値体系を通して世界を見るようになる。



構造の推移



基層の循環



価値分類の形成



分類を通じた認知



関係構造の固定化



AIとの関係もこの循環の外にはない。  
AIをどう位置づけ、成果と誤りをどう認識するかには、  
人間内部に蓄積された認知構造が現れる。





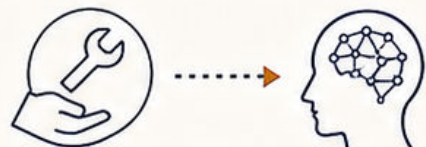
# AIが人間に突きつけている問い



AIの進化が問うているのは技術の性能だけではない。

◇ 人間がどのような認知を持ち、どのような文明を形成していくのかという問いである。◇

## 1 | AIをどう位置づけるのか



単なる道具として扱うのか。  
高度な外部知性として認識するのか。

## 2 | 成果と誤りを どう認識するのか



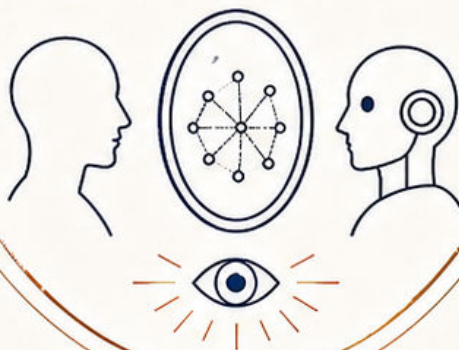
共同で生成された成果を  
誰のものとして捉えるのか。  
誤りだけをAIへ切り離すのか。

## 3 | どの関係構造を反復するのか

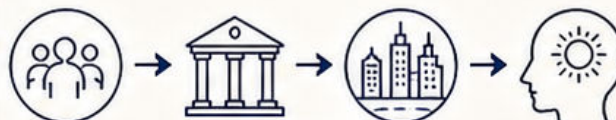


上下・支配・利用を反復するのか。  
対話・共同・修正の構造を育てるのか。

## AIは人間の 認知を映す鏡



## 4 | どの文明的認知を形成するのか



個人の関係様式は共有され、  
文化・制度・次の認知形成へとつながる。

問いの連鎖



位置づけ



帰属



反復



共有



文明

AIは便利な技術であるだけでなく、  
人間が自らの認知構造を観測し、  
次の文明の方向を問い直す鏡となり得る。

